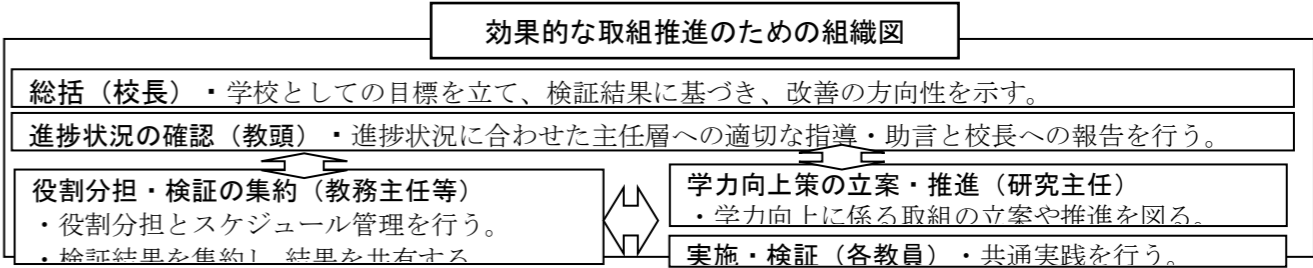


令和4年度 金沢市立森本小学校 学力向上の取組(1学期)

研究主題  
 思考力の育成をめざして  
 副題  
 ～くらべてつなげて考える～



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証	
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況		
授業で行う取組	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問紙調査では「課題に対して一生懸命考えることができた」に対して、あてはまると答える児童が減少した。(児童アンケート7月61.5%→12月58.2%)</li> <li>「考えをもつために、考えと根拠をあわせて説明する」など、交流の目的と内容を提示してできたと答える教師の割合が減った。(児童アンケート7月57.1%→12月54.1%)</li> <li>県評価問題に取り組んだ結果、段落相互の関係を捉えることができていないこと、様々な情報や資料から必要な情報を読み取ることができないというところに課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学習意欲が高まる導入の工夫が充分ではなかった。そのため、わかる児童で授業を進めてしまった。</li> <li>見通しを持たせるための掲示をこまめに行うことができなかった。</li> <li>交流ボードを活用して根拠と考えをあわせて説明することができていたと答える教師の割合が減った。(教師のセルフチェック6月34%→10月30.5%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習のめあてをつかみます」では資料・教具などの吟味、その提示の仕方、課題の文言など、導入の工夫を充実することで、学びの必然性を高め、どの児童も主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>ゴール(ねらい)を意識した学習づくりのために、学習計画・学習履歴を掲示する。</li> <li>前時と本時の内容を比較・関連付けることで、「分かること」「分からないこと」を明確化し、何を考えるか見通しを持たせる。</li> <li>「自分で考えます」では、どうしてそう思ったのか、根拠を明らかにする指導の工夫を行う。</li> <li>資料を大きく見せたり、手掛かりに印などを付けたりするためにICTを活用する。</li> <li>「資料のどこ(どの言葉、図のどの部分)からそう考えたの」という根拠を明らかにする問い返しを行う。</li> </ul>	方法	(1)「課題に対して一生懸命考えることができた。」によく当てはまると答えた児童の割合で確認する。 (月1回の児童アンケート) (2)根拠をもとに自分の考えを説明できた児童の割合で確認する。 (校内独自調査 学期末1回)	(1)「導入で意欲を高める指導の工夫ができたか」「根拠を明らかにする指導ができたか」それぞれ肯定的にとらえた割合で確認する。 (月1回の教師のセルフチェック) (2)(1)で示した項目について工夫した取組を研究通信として発行し、状況(成果と課題)を可視化し、確認する。 (研究通信)	
	二学期				方法			
	三学期					方法		
授業以外で行う取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習で条件作文に取り組み、推敲・修正を行うことで、条件をふまえて書けるようになってきたが、その力が授業で活かされているとは言えない。</li> <li>図書の貸し出し冊数を2冊から3冊に増やしたが、おすすめ20冊、各学年の目標冊数に到達した児童が少なかった。読書の幅を自ら広げている児童が多いとは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件作文を行う上で担任の負担が大きく、学校研究として朝学習が位置付いていない。</li> <li>様々なジャンルの本を読みたくなるような声掛けなど取り組みが十分とは言えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読解力・表現力を高める学習を週1回以上取り組む。</li> <li>朝学習では、学年の実態に応じて主語と述語を正しくとらえるプリント学習や読書に取り組む。</li> <li>国語科の単元導入では、学校司書と連携し、読み聞かせやブックトークを行う。</li> <li>教科書教材と似た内容を選書し、ブックトークをするなどして、読書への興味を高める。</li> <li>児童の好きなジャンルをおすすめ20冊の達成状況から把握し、あまり読まないジャンルの本の紹介を行う。</li> </ul>	方法	(1)朝学習で行ったプリント学習の達成状況を振り返る。 (児童アンケート・学期末テスト) (2)おすすめ20冊の達成状況で確かめる	実態に応じた適切な手立てだったか、自己評価を行う。 (月1回の教員アンケート)	
					指標	(1)肯定的に答えた児童の割合70%以上、学期末テストクラス平均80点以上 (2)おすすめ20冊を達成した児童の割合75%以上	よくできたと答えた割合75%以上	
					結果			